

為替週間展望 = ドル円は155円近辺でのみ合いが継続か

[5月20日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月13日～5月17日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	155.73	156.74(14)	153.60(16)	155.72	-0.06
ユーロ・ドル	1.0768	1.0895(16)	1.0766(13)	1.0863	+0.0092

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	38,787.38	+558.27	日本10年債利回り	0.956	+0.044
ダウ平均株価	39,869.38	+356.54	米10年債利回り	4.375	-0.121

=====

<来週の主要経済統計等>

- 22日 カナダ6月卸売売上高
- 23日 スイス7月貿易収支
米7月新築住宅販売件数
- 24日 NZ7月貿易収支
日本6月景気動向指数
独第2四半期国内総生産(GDP) 確報値
米MBA住宅ローン申請件数
米6月住宅価格指数
米7月中古住宅販売件数

【前回のレビュー】4月の米雇用統計は市場予想よりも弱い結果となったものの、政策金利は高止まりが警戒されていることや日銀の追加利上げには時間がかかるとの見方から、ドル買い円売りの流れは継続するとした。

【ドル円は売り一巡後に戻す】

14日発表の米生産者物価指数は市場予想を上回る強い結果となった。ただ、前回値が下方修正されたことで解釈の難しい結果となった。ドル円は上下に振幅したものの156円台で明確な方向感は出なかった。

15日発表の4月の米消費者物価指数は総合、コアともに前月比が+0.3%となり、市場予想を下回った。前年比は総合が+3.4%、コアが+3.6%となり、市場予想通りながら前回から鈍化することとなった。同時刻に発表された4月の米小売売上高は前月比変わらずとなり、事前予想の同+0.4%を下回り、前回値も+0.7%から+0.6%に下方修正された。NY連銀製造業景気指数は-15.6%となり、事前予想の-10.2%を下回り、前回の-14.3%も下回った。

米消費者物価指数などの結果を受けて米10年債利回りは4.34%前後まで低下しており、およそ1か月ぶりの水準まで低下した。ドル円は米消費者物価指数を受けての米長期金利の低下で15日に154.70近辺まで下落した。16日の東京市場では153.60近辺まで一段と下落した。なお、16日には4月の米輸入物価指数の上振れなどを受けてドル買いの動きに傾き、155円台半ばまで戻している。

米消費者物価指数や米小売売上高の結果を受けて、米連邦準備制度理事会(FRB)による早期利下げ観測の思惑が台頭している。これまではFRB高官のタカ派的な発言から、年内の利下げは1回程度といった見通しが広がっていたが、今回の米消費者物価指数を受けて、年内2回の利下げが織り込まれることとなった。市場では9月と12月

の利下げを織り込む格好となっている。

20日の週は、22日に米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（4月30－5月1日）がある。声明文では、「最近数か月はインフレ抑制の進展に向けての進展がなかった」と指摘があった。パウエル議長の記者会見では、「利下げ可能と判断できるまでまだ時間がかかる」「次の一手は利上げである可能性は低い」などと述べた。今回の議事要旨で新たな材料が出てくるかが注目される。

また、経済指標では22日に米4月中古住宅販売件数、23日には米4月新築住宅販売件数と住宅関連指標の発表がある。それ以外には、23日に米5月製造業PMI速報値、米5月サービス業PMI速報値なども注目される。米消費者物価指数の下振れなどもあり、弱めの米経済指標には敏感に反応する可能性もありそうだ。

それと、FOMCメンバーによる発言予定が相次ぐ。パウエル議長が20日早朝にジョージタウン大学の卒業式でスピーチ、20日にポストニック・アトランタ連銀総裁、パーFRB副議長、21日にバーキン・リッチモンド連銀総裁、ウォラーFRB理事、ウィリアムズNY連銀総裁など、数多くの発言がある。4月の米消費者物価指数や米小売売上高の発表後、関係者のスタンスの変化などが注目される。

ドル円は弱い米消費者物価指数の発表の後に下落したものの、売りが一巡すると戻りを見せている。日米金利差は高水準であり、ドルは底堅い上に円の売られやすい地合いは続くとみられ、ドル円は155円近辺でのみ合いが継続することとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、152.50～157.50円。

日米の経済指標やイベントとしては、22日に日本4月貿易収支、日本3月機械受注、米4月中古住宅販売件数、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨、23日に米新規失業保険申請件数、米5月製造業PMI速報値、米5月サービス業PMI速報値、米4月新築住宅販売件数、24日に日本4月消費者物価指数、米4月耐久財受注速報値、米5月ミシガン大学消費者信頼感指数などがある。

【ユーロドルは堅調な推移が継続か】

ユーロドルは米長期金利の低下によるドルの弱さを背景に上昇基調で推移してきた。テクニカル面では5日移動平均線をサポートに堅調な推移を見せている。14日に200日移動平均線から上放れている。

ユーロドルは欧米の経済指標に左右される可能性が高いとみられる。1.0900ドルに接近するなど、過熱感からの反動安も警戒されるものの、堅調な推移が継続するが見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0950～1.1000ドル。

英中銀（BOE）による利下げは年内2回、場合によっては3回との見方も出てきている。ポンドドルは21日移動平均線をサポートに堅調に推移しており、ユーロドルと同様に200日移動平均線から上放れている。22日の英4月消費者物価指数、英4月生産者物価指数、23日の英5月製造業PMI速報値、英5月サービス業PMI速報値の結果次第では上下に振幅する可能性もある。こうした中でも堅調な地合いは継続するとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2500～1.2850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、20日に中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート 1年 5年）、独4月生産者物価指数、21日にユーロ圏3月経常収支、ユーロ圏3月貿易収支、カナダ4月消費者物価指数、22日にNZ準備銀行（RBNZ）政策金利、英4月消費者物価指数、英4月生産者物価指数、23日にNZ第1四半期小売売上高、ユーロ圏5月製造業PMI速報値、ユーロ圏5月サービス業PMI速報値、英5月製造業PMI速報値、英5月サービス業PMI速報値、24日にNZ4月貿易収支英4月小売売上高、独第1四半期GDP確報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。